

# 心身ともにたくましい 「富来っ子」の育成

## 大分県国東市立富来小学校

全校児童数	101名(男子47名 女子54名)		
全クラス数	7	教職員数	13名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	姫島村立姫島小学校		
体育専科教員名			溝部 裕二

### Plan：取組時の課題と計画

#### 1 取組時の課題

##### ◆体力の二極化

・社会体育で運動をしている子どもと、していない子どもの体力の差が大きい。

##### ◆柔軟性・握力・走力など、体力テストでの弱さ

・個人差もあるが、全体的に基礎体力がついていない傾向があるように感じる。

##### ◆睡眠時間が少ない子どもが多い

・昨年と同様、睡眠時間が8時間未満の子どもが多く、6時間未満の子どもが全体の10%いる。(4年生以上)

#### 2 取組の計画

①体育授業で基礎体力をつけるための運動を導入

②体育授業の工夫改善

③担任の体育授業の実践力向上につながる資料提供や、専科T2への移行準備

④地域・家庭と連携した取り組みや、啓発活動

⑤兼務校や地域の学校への資料提供やアドバイス

### Do：実践内容

#### 1 体育授業の充実

(1) 準備運動の工夫

①準備運動に柔軟や基礎体力作りのためのメニューを追加

(2) ICTの活用と授業の組み立て

①iPadを活用して、子どもたちに自分の動きを見せながら動きの確認をさせるとともに、45分の学習の中で「できる」体験をさせ、満足感や達成感を味わうことができる授業を確立する。

#### 2 1校1実践の内容の見直し

①子どもたちが自ら進んで取り組めるように、学期毎にメニューを見直し、児童会とも連携した実践となるよう工夫する。また、評価カードを活用する。

・1学期 体力テスト項目の練習

・2学期 縦割り班で8秒間走・鉄棒・雲梯・ラダー  
ジャンプボード・バトンスロー

・3学期 なわとび

#### 3 担任T1の授業の取り組み

①担任が授業を行いやすいように、なるべく毎時間学習の簡単なプログラムを配布したり、資料の提供をしたりする。

②兼務校でも同様に取り組みを進めていく。

### ●工夫したこと (&苦勞した点)

①子どもたちが楽しく意欲的に取り組めるよう、簡潔で肯定的なことばかけをするように心がけた。

②子どもたちの運動量を確保するために、全ての学年が同じ時期に同じ領域で学習ができるように教育課程を組み、できるだけ準備や片付けの時間が少なくすむようにした。

③45分の学習活動をスモールステップで、どの子にも必ず「できた」という達成感や喜びをもたせるように、場や教材・教具の工夫に努めた。

④1校1実践の内容を変更する際に管理職や同僚の意見を参考にして、子どもたちが進んで取り組める内容を考えた。縦割り班を使うことで、6年生が中心になって進めることができた。

⑤専科T2の学習形態をとり担任が学習を進めることで、専科教員は運動が苦手な子どもや上手くできない子どもにポイントを伝えたり、アドバイスしたりする時間が増え、子どもたちの意欲の持続につながった。

### Check：取組の成果

①TT指導を進める中で、運動経験の少ない子どもや、苦手意識を持っていた子どもが少しずつ減ってきている。

(児童アンケートより) また、4・5・6年生の運動の愛好度は73%と昨年度よりも11ポイント増加した。(子どもが違うので一概には判断できにくい)

②運動の場や教材・教具の工夫をしながら学習を進めてきたことで、運動に対する関心や挑戦してみようとする姿勢が多く見られるようになってきた。

### Action：今後の課題

①体力テストで柔軟性・走力・握力に課題がある。これまでも、学習前のサーキット運動で補充をしてきているが、引き続き粘り強く継続していく必要がある。

②教材・教具が十分でない。(兼務校も同様)

③兼務校の担任と打ち合わせをする時間や授業準備の時間確保が難しい。

### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

学習の工夫次第で、どの子どもも体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができ、自信につながる。

また、周りから認められることで、学級に自分の居場所を感じられるようになる。

1学期の学習の様子 (ソフトバレーボール・6年)



2学期の学習の様子 (小型ハードル走・4年)



学習前の体カアップ運動



1校1実践 (11月・寒稽古)

